

ごあいさつ

いつも阪神電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

当社は、その経営理念に「安心・快適」そして「夢・感動」を掲げており、常にお客さまの安心の最も重要な基盤である安全を最優先とした鉄道事業の運営に重きを置いてまいりました。本年4月12日には開業120周年という大きな節目を迎え、これまで築き上げてきた信頼を次の世代にしっかりと繋げていくために一層気を引き締め、これからも常にお客さまの“たいせつ”に寄り添いながら、社員一丸となって安全・安定輸送を継続してまいります。



阪神電気鉄道株式会社
代表取締役・社長

久須 勇介

さて2024年度は、引き続き「責任事故ゼロの継続」を安全目標とし、次のとおり、ハード・ソフト両面にわたり安全性の向上に取り組みました。

まず、現在整備を進めているホームドアについては、甲子園駅において1番線、4番線への設置を完了しました。引き続き、2番線、3番線への設置を進めるとともに、その他の駅についても「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、鋭意設置を進めてまいります。このほか、車内防犯カメラの設置(近年中に更新計画がある車両を除く)、阪神なんば線淀川橋梁の改築や高架橋の耐震補強、車両の代替新造などを着実に進め、運転保安度の向上に努めました。

また、2024年度は安全重点施策を『ヒューマンエラーに起因する「事故の芽」事象の削減』、『自然災害及び鉄道テロ発生時等の異常時における対応力の強化』、『知識と技能の着実な継承』の3項目とし、これらを中心に具体的な行動計画を定めて種々取り組みました。特に、社員の安全意識の向上を目的とした安全啓発研修に注力したほか、阪神・淡路大震災から30年の節目に座談会の開催や震災関連情報のパネル展示などの各種社内行事を行い、震災の記憶や教訓を改めて振り返るとともに、自然災害に対する備えや防災力向上の重要性を再認識する機会としました。

上記の安全重点施策は鉄道輸送の安全を確保する上で欠かすことのできないテーマであることから、2025年度もこれら3点に全力で取り組みます。なお、施策の推進にあたっては、職場内や部門間、ベテラン層と若年層間において相手に「伝える」「伝わる」を意識したコミュニケーションを促進し、安全を大切にする風土の更なる醸成に努めます。また、防災力の向上に関する取り組みについては、沿線や地域の皆さまとともに進めていくことにも注力してまいります。

このような取り組みを通じて、引き続き、「責任事故ゼロの継続」を安全目標とし、お客さまに安心してご利用いただけるよう全役員・社員が一丸となって輸送の安全確保に努めてまいります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4の定めに基づき、当社の安全確保に関する取り組みや鉄道の適切なご利用について皆さまにご理解いただくために公表するものです。ぜひ本報告書をご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

2025年7月